



平成 30 年 8 月 3 日
海 上 保 安 庁

西之島の噴火について（7月30日観測）

○噴火の状況

7月30日午後2時頃、当庁羽田航空基地所属航空機（MA725）により、西之島の火山活動の観測を実施しました。その結果、噴火は認められませんでした。一方、青紫色の火山ガスが継続的に放出されていました。

海上保安庁では、引き続き、航行警報により付近航行船舶に注意を呼びかけています。

なお、今回の観測結果は以下のとおりです。

- 火砕丘中央火口及び火砕丘東側斜面に形成された新火口からの噴火は認められなかったが、新火口から薄い青紫色の火山ガスが放出（図1）されている。
- 島の全周で青白～黄緑色の変色水域を確認し、特に島の北側に、周囲と比較して色が濃い変色水域を確認した。（図2）
- 新火口から島南岸へ流れる長さ約700mの溶岩流を認めた。この溶岩流は7月18日と比べて約100m延びている。なお、溶岩流の先端は、海まで約100mの地点まで達している。（図3,図4）

また、今回の観測に同乗した東京工業大学火山流体研究センターの野上健治教授は、観測結果について、以下のように述べています。

「二酸化硫黄（SO₂）を含む高温の火山ガスの放出が継続しており、活動が活発化している時期に顕著に濃くなる北西部の変色水域が、現在も広い範囲に分布している。このことから、現在は噴火も溶岩流出も停止しているが、噴火が近い将来に再開する可能性が高いと考えられる。」



図1 火山ガスが放出されている様子

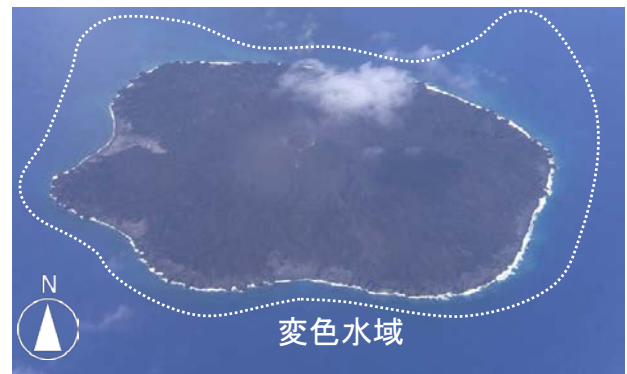


図2 島全周に分布する変色水域

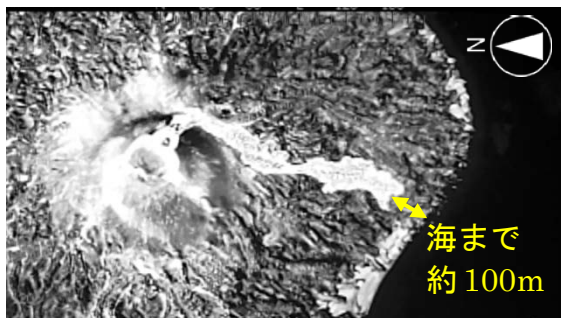


図3 熱画像（島南岸へ延びる溶岩流）

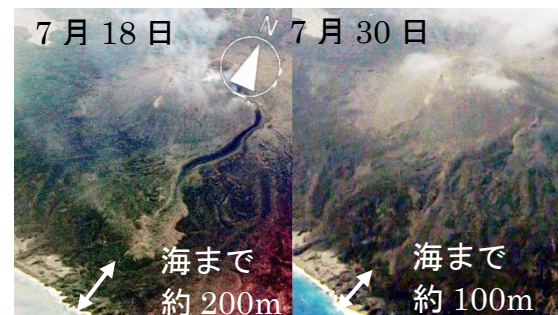


図4 7月18日観測の溶岩流との海までの距離の比較